報道関係者各位

2013 年 3 月 1 日
沢井製薬株式会社

関東工場（千葉県茂原市）新製剤工場が本日 3 月 1 日より稼働
～生産能力の増強、既存工場とのリスク分散体制を推進～

沢井製薬株式会社（本社：大阪市、代表取締役社長：澤井光郎）は、関東工場（千葉県茂原市）の敷地内に建設を進めておりました新製剤工場が竣工し、本日 3 月 1 日（金）より稼働いたしましたのでお知らせいたします。

当社は今後も高品質なジェネリック医薬品を自社で製造し、皆様へ安定してお届けすることを通じ、「なによりも患者さんのために」という企業理念の実現に向けて取り組んでまいります。

◆新製剤工場建設の背景

新薬と同じ成分同じ効き目のジェネリック医薬品は、国の医療費節減のために今後さらなる普及が見込まれております。急な需要増に対しても高品質な製品を安定して供給するために生産能力の強化を図るべく、関東工場敷地内に新製剤工場の建設を決定し、2011 年 9 月より建設工事を進めてまいりました。

また医薬品においてもリスクマネジメントが課題となっており、東日本大震災以降、その対策の必要性がさらに叫ばれるようになりました。当社においても医薬品製造のリスク分散に向けた体制の構築を進めており、新工場の完成もその一環です。

◆特徴

１．生産能力の増強を図るための工場

年間の生産能力として 20 億錠を有しております。当工場の完成によって、沢井製薬全体では 80 億錠となり、急な需要増にも対応できる体制となりました。また当工場は将来のジェネリック医薬品のさらなる需要に対し、柔軟に対応するための予備スペースを有しており、機械の追加導入等を実施すれば、40 億錠まで生産能力を引き上げることができ、沢井製薬全体として年間 100 億錠の生産体制の構築が可能となります。

２．工場間でのリスク分散体制を推進するための工場

多品種少量生産というジェネリック医薬品の特徴から、災害等へのリスクマネジメントは喫緊の課題と捉え、既存の生産拠点である三田工場（兵庫県三田市）、大阪工場（大阪市）、九州工場（福岡県飯塚市）、第二九州工場（福岡県飯塚市）との製造機械の共通化等を図り、相互補完によるリスク分散体制の構築を進めています。また耐震設計、2 系統受電等による災害対策も行っています。

３．高品質かつ高生産性を実現する工場

最新製造エンジニアリング技術を導入した自動化の推進、人とモノの動線分離等により、高品質と高生産性を実現してまいります。日本における医薬品の製造・品質管理の基準である「GMP」（Good Manufacturing Practice）は当然のことながら、FDA（アメリカ）やEU（欧州）基準にも対応しうる設計としました。

４．環境にやさしい工場

省エネ対応の設備・製造機器の導入、ユーティリティ部分におけるLED 照明の使用、そして敷地内の積極的な緑化等を行うことにより、環境にやさしい工場を目指します。

◆新製剤工場の概要

名称：　関東工場
（既存の製剤工場は取り壊し予定）
所在地：　〒297-0017　千葉県茂原市東郷 1900-1
事業内容：　医療用医薬品（内服固形製剤）の製造
投資額：　約 100 億円
構造：　S 造（鉄骨構造）・耐震構造
事務・品質管理棟：3 階建
工場棟：5 階建

	新	旧
敷地面積	87,477 ㎡　※変更なし	87,477 ㎡
延床面積	24,551 ㎡ （別途シリンジ棟 3,623 ㎡）	7,402 ㎡ （別途シリンジ棟 3,623 ㎡）
生産能力（関東工場）	年間 20 億錠 機械の追加導入等を実施すれば、 40 億錠まで増強が可能	年間 5.4 億錠
生産能力（沢井製薬全体）	年間 80 億錠	年間 60 億錠
就業人数	176 名（2013 年 3 月 1 日現在）	113 名（2011 年 9 月 30 日現在）

◆お問い合わせ先◆
沢井製薬株式会社 戦略企画部 広報グループ
TEL：06-6105-5718／E-mail：koho@sawai.co.jp